

## 第1087回教育委員会会議録

- 1 日 時 平成30年9月26日(水) 午後3時00分～午後5時18分
- 2 場 所 教育委員会室
- 3 出席者 東村教育長 吉井委員 西野委員 八田委員 原委員  
松田教育振興監 佐々木学校教育幹  
片柳教育政策課長 巣守学校振興課長 清川高校教育課長  
中森課長(高校学力向上) 浦井義務教育課長 坂本スポーツ保健課長  
清水生涯学習・文化財課長
- 4 議 題
  - 日程第1 第21号議案 平成30年度教育功労者表彰の被表彰者の決定について
  - 日程第2 第22号議案 審査請求に対する裁決について
  - 日程第3 第23号議案 審査請求に対する裁決について
  - 日程第4 第24号議案 平成31年度福井県公立学校教員採用選考試験の採用内定者の決定について

### 5 審議事項

- (1) 開会宣告 午後3時00分
- (2) 会議録署名人の指名 西野委員 八田委員
- (3) 議事要録

教育長 本日の日程第1 第21号議案から日程第4 第24号議案、協議報告事項の3から4については、事務執行上、公開が適当でないことから、非公開とする旨発議

—————当該議案を非公開と決する—————

### ◎協議・報告事項

- (1) 高校生学習状況調査の結果について

吉井委員 学校ごとに差はあるのか。

高校教育課長 学校間で差はある。例えば、通塾の割合は普通科の高校の方が高かった。普通科の中でも、4年生大学への進学意識が高い生徒が多い学校ほど高くなっている。勉強時間についても、普通科と職業系とでは差がみられた。

西野委員 勉強でインターネットを使う場合、調べ学習等で授業中のスマホや携帯電話の使用は認められているのか。

高校教育課長 校内でのスマホや携帯電話の使用は認められていないが、総合的な学習では、コンピューターがあるC A I教室を使って調べ学習を行っている。全ての学校ではないが、一人一台タブレットがある学校もあり、時間調整をして一人ひとりがタブレットを使って調べ学習をできるようにしている。

西野委員 特に、語学の学習では、インターネットを活用した調べ学習が有益であると思われるが、学習で得た知識などを授業中に互いに教え合うような情報交換は行われているのか。

高校教育課長 英語の授業等では、生徒が学んだことを発表したり、伝え合ったりする活動が行われている。

八田委員 新聞をほとんど読まない生徒、全く読まない生徒が66%も占めており、とても高い印象がある。ここ数年の推移はどうなっているのか。

高校教育課長 昨年、全体的に新聞を読まない生徒は全体の64%であった。昨年の教育委員会でも割合の高さを指摘されており、今年度はさらに高くなっている。

八田委員 もっと活字にふれてほしいが、ネットニュースなどもあるのでそれらを見る生徒が増えてきていると思われる。テレビやインターネットでニュースを見る生徒が47%を占めているが、内訳は分からないのか。

高校教育課長 質問項目がテレビとインターネットでまとまった質問になっているので、それぞれの割合までは分からない。今後、この質問について、ニュースとインターネットに分けることも検討していきたい。

八田委員 選挙権が18歳になったことで、高校生の政治に対する意識の調査も検討してみてもどうか。

高校教育課長 選挙制度について、現代社会の授業や選挙管理委員会からの話を聞くなどの取り組みを全学年対象に行っている。今後、政治に対する関心度を見るための項目についても検討していきたい。

教育長 中学校の学習状況調査での新聞に関する調査結果はどうなっていたか。

高校教育課長 現在の高校1年生について、新聞を読んでいる生徒は中学校3年生の時に22.1%いたが、今年度高校1年生になって16.2%に下がっている。今年度の高校2年生で新聞を読んでいない生徒は70.7%であったが、

昨年度の高校1年生時には65.1%、さらに、中学校3年生時には51.8%で、学年が上がると新聞を読まなく傾向が見られる。

西野委員 新聞を取っていない家庭が増えていることも原因としてあげられるのではないかと。保護者もスマホやインターネットでニュースを見ることが多くなっている。調査では、新聞を取っているかどうかについても質問してみてもどうか。また、学校において気軽に新聞を読める環境は整備されているのか。

高校教育課長 その質問については、各家庭の経済的な事情を聴くことにもなるので、慎重に考えていきたい。どの高校も図書館を中心に3～6紙ほどの新聞を読めるようになっている。生徒が頻繁に通る廊下や生徒玄関に新聞を掲示して、生徒の目に触れやすい工夫を各高校では行っている。今後も、新聞を読んでいる生徒の割合が増えていく取り組みを進めていきたい。

原委員 家庭学習・生活に関する質問について、午後7時から8時頃に帰宅して、1.5時間ほど勉強をして、1.5時間テレビを見て、1.5時間ネット見ている生徒が多いが、これだと睡眠時間がとても短い気がする。寝る時間や起きる時間、睡眠時間についてはどうなっているのか。

高校教育課長 生活に関して、全てのボリュームゾーンの時間を合わせていくと睡眠時間が短くなってしまいが、ゲームが長いと勉強時間が短かったりするなど、全ての生徒があてはまるわけではない。一人ひとりの生活時間については、各学校で生活の記録をつけながら様子を見て指導を行っている。

## (2) 福井県不登校対策指針の改訂について

八田委員 福井県の不登校者数が増加に転じた理由は何かあるのか。

義務教育課長 明確な要因についてははっきりとは言いにくいですが、不登校に対する社会の捉え方が変わってきたことも要因の一つである。不登校対策と言わずに不登校支援という形で対応を考えている県があるなど、絶対に学校に戻さなくてはならないという風潮ではなくなっている。

八田委員 ネット環境の充実によって、不登校について保護者も各家庭で支援できるようになってきたことも増加の要因として考えられるのではないかと。SNSを活用した教育相談など、新しい対応も考えてみてはどうか。

教育長 中学校の校長先生からは、近年の人権意識の高まりからいじめ等で不登校になる生徒は少なくなったと聞いている。それよりも、家庭内の環境の変化で睡眠時間が短くなったり、昼夜逆転が起こったりすることで朝起きられない生徒が増えていることも不登校の増加と深く関係しているようである。不登校の捉え方が、一昔前よりも多様化して難しくなっている。

西野委員 以前は、生徒も保護者も学校に行けなくなったらどうしようという意識が強かったが、今はそのような意識が変化してきている。学校は、不登校の生

徒や保護者と面談をした際に、生徒・保護者の不登校に対する意識の変化をどのように感じとっているのか。

義務教育課長 確かに、保護者の不登校に対する意識は変わってきている。学校に戻りたいという活力が湧いてくるまでは、そっとしておきたいと思っている保護者が増えている。昔は、引きこもると寂しくなるのが普通だったが、今は引きこもってもSNS等でいろいろな所とつながっていて寂しさを感じないことが多い。そのような子どもの姿を見て、しばらく様子を見ていこうと思う保護者も多くなっている。

吉井委員 医学的に見て、発達障害の子どもが増えてきているのではないか。そこから、うつ状態になっている可能性もある。

義務教育課長 不登校生徒の中に、発達障害の子どもが増えている状況を明確に示すものはないが、症状的に重なっている子どもがいることは間違いではない。

教育長 学校だけで解決できないので、スクールソーシャルワーカーや家庭の問題でもあるので福祉の方面と連携を図ったり、臨床心理士の力も活用したりしないとなかなか解決していかない。しかし、福井県では、それらの資格を持っている人材も多くないので、厳しい状況ではある。

(3) 平成31年度文部科学省概算要求について

(4) 学校業務改善方針策定に向けた進捗状況について

教育長 日程第1、第21号議案を議題

教育政策課長 資料に基づき説明

教育長 第21号議案について、原案に対する異議の有無を確認

—————原案どおり可決—————

教育長 日程第2、第22号議案と日程第3、第23号議案を議題

学校振興課長 資料に基づき説明する

教育長 第22号議案と第23号議案について、原案に対する異議の有無を確認

—————原案どおり可決—————

教育長 日程第4、第24号議案を議題

学校振興課長 資料に基づき説明

教育長 第24号議案について、原案に対する異議の有無を確認

—————原案どおり可決—————

教育長 本日の会議の終了を宣言

6 閉会宣言 午後5時18分